

第1 「目指す学校」

【教育目標】 規律ある学校生活を通し、自由と規律」の教育理念を実現するため、以下の目標を掲げる。

- 1 品位と教養を高める。
- 2 新しい価値を生み出す自由の精神を養う。
- 3 国際社会で活躍できる知徳体の能力をバランスよく伸長する。

【目指す学校像】 心身伸びやかに、知を鍛え、徳を育てる学校

【育てたい生徒像】『お互いを尊重し自分の良さを認めるとともに、自らの課題を解決する意欲をもつ生徒』

【スクール・ミッション】(設置者が各学校と連携し、在籍する生徒の状況や期待に加え、各学校の歴史や伝統、社会や地域の実情を踏まえて、各学校に期待されている役割、目指すべき学校像を目指すもの)

定時制課程単位制の特色を活かし、丁寧に寄り添う教育相談、個に応じた履修形態、進路に関するガイダンスなどの教育活動を通じて、多様な価値観を認め、自他を尊重しながら進んで社会に貢献しようとする生徒を育成します。

【アドミッション・ポリシー】(入学者の受入れに関する方針)

本校は、習熟度授業や少人数授業、互いの個性を認め合う落ち着いた環境づくり、通信制高校との併修や資格取得による単位認定を行うことで、生徒の学習や進路実現に向けた努力を支援する単位制の夜間定時制高校です。本校の特色を理解し、入学後に互いの違いを認め合い、自分自身の目標に向けて前向きに努力できるような、次の項目に該当する生徒が志望することを期待します。

- 1 自らの在り方生き方を考え、将来の目標へ向けて、前向きに努力しようとする意志のある生徒
- 2 他人に対する思いやりの心をもった生徒
- 3 毎時間の授業や部活動、学校行事等、日々の学校生活を大切にできる生徒
- 4 自分の心と体を大切にできる生徒

【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す資質・能力に関する方針)

本校では、次のような人材を育成します。

- ・多様な価値観を認め、自他を尊重しながらコミュニケーションをとることができる。
- ・社会の中で自分の役割を見出し、進んで社会に貢献しようとすることができる。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- ・基礎学力～読む・聞く・話す・書く～

知識として物事を理解するだけではなく、異なる価値観の人と協力してコミュニケーションを図りながら理解したことを、論理的に話す、書くなど表現する力(話す、書く)が含まれている。そのためには、自ら学び(読む)、他者の意見を尊重する(聞く)ことが求められ、価値の多様性のなかでの協調性が身につくと考えます。

- ・キャリアプランニング力～未来予想図～

職場での立場やポストといった狭い意味でのキャリア形成ではなく、広く自分の人生をどうとらえるか(社会との関わりのなかで自分の役割をどう見出すか)、といった広い視野に立ったキャリア観を異なる価値観の集団のなかで形成する力を意図しています。

- ・健康の自己管理能力～心も体も元気いっぱい！～

上記の活動に取り組むうえで土台となる心と体の健康の向上を着実に図る力を指しています。

第2 「中期的目標と方策」について

【中期的目標と方策】

1 学習指導

(1) 目標	(2) 方策
学びに向かう力と学びを生かす力を身に付けさせる学習指導	ア 基礎・基本の確実な定着 イ 校内外における研修の促進 ウ 根拠に基づく PDCA サイクルの確立

2 生活指導

(1) 目標	(2) 方策
生徒理解に基づく指導の充実	ア 時間管理能力の向上 イ 規範意識の向上 ウ 相互尊重の精神の涵養

3 特別活動

(1) 目標	(2) 方策
特別活動を通したうるおいのある学校生活の実現	ア 結果のみならず、プロセスを重視した生徒支援 イ 成功体験、達成感・成就感の積み重ねによる、自己肯定感（自尊感情）の高揚

4 健康教育

(1) 目標	(2) 方策
生徒の健康自己管理能力の育成	ア 心身の健康の維持 イ 生徒相談体制の確立 ウ 安全指導（交通安全教育や防災教育等）の徹底 エ 感染症防止対策の徹底

5 進路指導

(1) 目標	(2) 方策
キャリアプランニング力を身に付けさせる進路指導	ア 総合的な探究の時間を始めとした計画的なキャリア教育 イ 多様な進路希望に応じた組織的指導体制の確立 ウ 資格取得の支援及び面接指導の実施

6 広報活動

(1) 目標	(2) 方策
学校の特色及び魅力の周知	ア ホームページの有効活用 イ 校内外の学校説明会等における効果的なPR活動

7 組織運営

(1) 目標	(2) 方策
盤石な組織体制の構築	ア 服務規律の徹底 イ 校務の整理と見える化 ウ 起案による適正な文書管理 エ 都の推進校事業及び教育施策を活かした組織的対応 オ 協働体制の構築と職責に応じた責任ある行動

8 働き方改革

(1) 目標	(2) 方策
働きやすい職場づくり	ア 無理と無駄のない組織づくり イ 長時間労働の解消と適切な健康管理 ウ 教職員のモラルアップ エ 教職員相互のコミュニケーションの活性化 オ 様々な課題に関する相談環境の整備

第3 「今年度の取組目標」

1 学習指導「学びに向かう力と学びを生かす力を身に付けさせる学習指導」

- ア 基礎・基本の確実な定着
スクール・ミッションに応じて適切な教育課程を編成し、基礎・基本の確実な定着に向けた学習指導体制を構築する。
- イ 校内外における研修の促進
授業参観・研究授業及び教職員研修センターや民間教育機関主催の研修受講を推進する。
- ウ 根拠に基づくPDCAサイクルの確立
教員相互参観、生徒による授業評価、管理職による授業観察等で課題を把握し、改善策を施す。

2 生活指導「生徒理解に基づく指導の充実」

- ア 時間管理能力の向上
ノーチャイム制の下で自分の行動を自分で管理する意識を高める。
- イ 規範意識の向上
本校生活指導校内規定の共通理解の下、生徒の規範意識を高めながら問題行動の防止に努めていく。
- ウ 相互尊重の精神の涵養
お互いを尊重し、差別や偏見、いじめや嫌がらせのない学校づくりを推進する。

3 特別活動「特別活動を通したうるおいのある学校生活の実現」

- ア 結果のみならず、プロセスを重視した生徒支援
勝敗や入賞等の結果だけでなく、困難なことも克服し、地道に努力を積み重ねることのできる生徒を育てる。
- イ 成功体験、達成感・成就感の積み重ねによる、自己肯定感（自尊感情）の高揚
部活動において、顧問を適正に配置し、部活動指導員や外部指導員等と緊密に連携するなどして、指導体制の充実を図る。また、安全かつ効率的な部活動運営ができるよう、環境の整備に努め、部活動加入率を55%以上とする。
生徒の能力・適性を踏まえた適切な指導により、生徒が成就感・達成感を味わうことができる学校行事をつくりあげ、生徒の学校満足度を90%以上とする。

4 健康教育「生徒の健康自己管理能力の育成」

- ア 心身の健康の維持
生徒が「自分の健康を自分で管理」できるように支援するとともに、保健体育の授業や部活動等を通して体力の向上と健全な精神の育成を図る。
- イ 生徒相談体制の確立
生徒が必要な時に、必要なことを相談できる組織体制を整える。
- ウ 安全指導（交通安全教育や防災教育等）の徹底
特に自転車乗車に係る交通安全指導を徹底するとともに、災害時の自助・共助・公助の精神の育成に尽力する。
- エ 感染症防止対策の徹底
都のガイドラインに基づき生徒の健康管理と適切な衛生管理に尽力する。

5 進路指導「キャリアプランニング力を身に付けさせる進路指導」

- ア 総合的な探究の時間を始めとした計画的なキャリア教育
キャリア教育計画に基づき、進路指導部が学年や教科等と連携し、学年・時期ごとの目的を意識しながら、目標達成までのプロセスを重視した指導を実践する。
- イ 多様な進路希望に応じた組織的指導体制の確立
各種入試や選考試験の傾向や対策に関する校内研修を年3回以上実施するとともに、各教員が1回以上、

教職員研修センター、職安他外部機関の実施する教員対象の研修会に参加し、研修成果を共有する。

ウ 資格取得の支援及び個別指導の実施

英語検定、漢字検定その他の資格取得を推奨し、15名以上を合格させる。また、全教職員が、進学及び就職希望者のニーズに応じた面接や書類作成等の指導を実施する。

6 広報活動「学校の特徴及び魅力の周知」

ア ホームページの有効活用

本校定時制の特色を明確にし、生徒の目線での学校のよさを学校紹介動画等で紹介する。

イ 校内外の学校説明会等における効果的なPR活動

グランドデザインコンセプトマップや学校案内を中学校に配布するとともに、合同説明会等で来場者に懇切丁寧に対応することで、本校定時制への信頼を勝ち取る。また、近隣地区を始めとした中学校の教員に直接PRする機会をもてるよう、連携の強化に努めていく。

7 組織運営「盤石な組織体制の構築」

ア サービス規律の徹底

平素からの注意喚起及び適正な研修の実施により、教職員のサービス規律を徹底する。

イ 校務の整理と見える化

全教職員が当事者意識をもって学校の課題を把握し、改善に向けて具体的方策を考察し、実行に移す。校務を適切に整理するとともに、その流れが誰にでも分かるように情報共有を図る。

ウ 起案による適正な文書管理

電子起案を推奨し、迅速で確実な文書管理を徹底する。

エ 都の推進校事業及び教育施策を活かした組織的対応

すべての教職員が、本校のスクール・ミッションを理解し、その実現に向けて都の推進校事業及び教育施策を積極的・組織的に活用する意識をもって行動する。

オ 協働体制の構築と職責に応じた責任ある行動

OJT ガイドライン及び執務ガイドラインに基づき、職責を意識した人材育成のラインを確立し、リーダー層の教職員が適切に業務を進行管理できる校内体制を構築する。

8 働き方改革「働きやすい職場づくり」

ア 無理と無駄のない組織づくり

個人の取組（点）を単発の取組に終わらせず、全体の取組（線・面）に高めることを目指した、学校として進むべき方向の共通理解に努めていく。

校内分掌とは別の委員会やPT等の意義と役割を踏まえ、整理・再構成を図る。

大量の印刷物のスリム化を図り、ペーパーレス化を推進する。

個人で作成しているデータや資料を全体のフォルダに格納し、共有することで、業務の省力化を図る。

イ 長時間労働の解消と適切な健康管理

特定の教職員に負担が集中しないよう、担当業務の内容を精査し、校務分担の均一化を図る。

ウ 教職員のモラルアップ

面談や日常の対話の中で、個々の教職員がもつ課題意識を把握するとともに、改善に有効な提案を積極的に採用し、学校経営へ反映させていく。

また、教職員それぞれが力点を置き、継続的に活動していることや成果をあげていることを理解し、認め合っていくことができる、温かい雰囲気の職場づくりに努める。

さらに、授業や部活動等、生徒の変容を実感できるデータ公開や、全校集会での表彰等を推奨する。

エ 教職員相互のコミュニケーションの活性化

個人の力に頼っている業務の在り方を見直し、協働し組織的に対応できるよう、教職員相互のコミュニケーションを深める機会を意図的・計画的に設定する。

オ 様々な課題に関する相談環境の整備

各教職員が悩みを相談し課題解決を支援できるよう、相談環境を整える。

第4 数値の経年変化と今年度（令和6年度）目標

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
進路決定率（％）	82	△100	▼92	▼73	100
就職者数（人）	△6	6	▼4	4	8
出席率（％）	▼81	▼84	86	△91	92
中退率（％）	△1.6	▼4.7	▼10.6	△7	5
特別支援教育に関する委員会の開催回数（回）	2	△12	△15	△21	15
部活動加入率（％）	△45	▼44	△53	52.3	55
ホームページ更新回数（回）	46	▼35	△100	△108	120
一日あたりのクラスの平均遅刻人数（人）	2.08	△1.9	△1.65	△1.3	1.2
各種検定合格者数（人）	7	△14	▼13	△14	15
生徒の学校満足度（％）	▼92	▼89	△97	▼87	90
相談しやすい先生がいると考える生徒の割合（％）	△88	▼87	△92	△97	98
生徒の授業満足度（％）	▼89	△94	△97	△100	100
一般需用費のセンター執行割合（％）	▼48.4	52.4	△59.3	△69	70